

合気道の開祖

植芝 盛平

うえしば もりへい

1883年-1969年

「合気道の創始者である植芝盛平翁は、私にとって神様のよきな存在です」合気道を始めて65年、田辺市内で合気道場を主宰し、その普及に努める五味田聖二さんが、植芝翁に初めて会ったのは小学4年生のときだと言います。「当時、身体の弱かった私を心配して親が道場に通わせただけですが、正式に道場生になったのは中学1年生のときでした。大先生(植芝翁)は、私に技術よりも心の修行、つまり精神の修行が大切であることを教えてくれました」



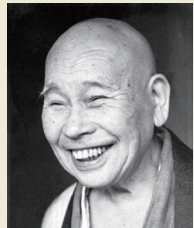
The practice of "aikido," founded by Morihei Ueshiba, has spread throughout Japan and onto many areas of the world, especially Europe.

合気道の理念は、武道を通して多くの人に出会い、「和合」を尽くすこと。田辺市内の公園にある両手を広げた植芝翁の銅像は、「技」と共に「宇宙の和合精神」を表現しているといわれ、植芝翁が創始した合気道は、日本はもとよりヨーロッパを中心に世界各地に広がっています。



植芝盛平翁顕彰会 理事長 五味田 聖二さん

山本 玄峰 (やまもと げんぼう) 1866年-1961年



本宮町生まれで、24歳の時に失明後、四国八十八箇所の霊場巡りに出ました。全国を回って修行を続け、白隠慧鶴の古刹を再興します。'45年、鈴木貞太郎首相に終戦を勧め、「象徴天皇制」を提案するなど、鈴木首相の相談役を務めました。

Genpo Yamamoto, who became blind at the age of 24, served as an advisor to Prime Minister Suzuki, recommending the end of war in 1945.

脇村 義太郎 (わきむら よしたろう) 1900年-1997年



田辺市生まれで、昭和から平成の経済学者であり、東京大学名誉教授でもあった脇村氏は、海運・保険・石油などの世界経済や経営史を研究しました。財閥解体・海運業界再編など数多くの産業政策に参画し、'88年から'94年まで日本学士院長を務めました。

Yoshitaro Wakimura, a scholar of economics in the Showa(1926-1989) and Hesei(1989-present) eras, was a professor emeritus at Tokyo University.

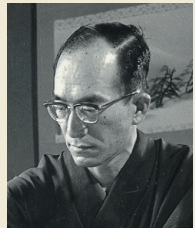
片山 哲 (かたやま てる) 1887年-1978年



田辺市生まれで、東京帝国大学法学部独法科卒業、弁護士となります。社会民衆党の結成に参加し、書記長に就任します。'30年、衆議院議員に初当選し、以後、当選12回を数えます。戦後、日本社会党結成に参加し、'47年、内閣総理大臣に就任、'63年に政界を引退しました。

Attorney Tetsu Katayama was first elected to the House of Representatives in 1930, and went on to serve as Prime Minister in 1947.

高川 格 (たかがわ かく) 1915年-1986年



田辺市生まれで、本因坊戦9連覇の功績により名誉本因坊として「高川秀格」と号し、後に二十二世本因坊を贈られました。「流水不争先」を信条とする昭和を代表する名棋士です。'74年に紫綬褒章、'85年に勲三等旭日中級章など多くの受賞、褒章を得ました。

A renowned master of the game of "igo," Kaku Takagawa received the Purple Medal of Honor in addition to many other awards.

小川 琢治 (おがわ たくじ) 1870年-1941年



田辺藩儒学者 浅井家に生まれました。地学の研究を志して、日本各地を調査し、日本列島の地質二重構造説・日本アルプスの低地水河存在説などを発表します。'26年、帝国学士院会員に任命されました。湯川秀樹・小川芳樹・貝塚茂樹らの父です。

Takuji Ogawa carried out research in geosciences throughout Japan, and published many treatises.

野長瀬 晩花 (のながせ ばんか) 1889年-1964年



中辺路町近露生まれで、谷口香嶺に師事しました。その後、官展に反する姿勢を示し、個展などで作品を発表します。'18年には土田麦僊らと国画創作協会を創設し、日本画壇に新風を吹き込みました。また、信州の画家、詩人らと白炎社を結成し、芸術文化運動に貢献しました。

The painter, Banka Nonagase, brought new influences into the Japanese art scene.

田辺ゆかりの偉人たち

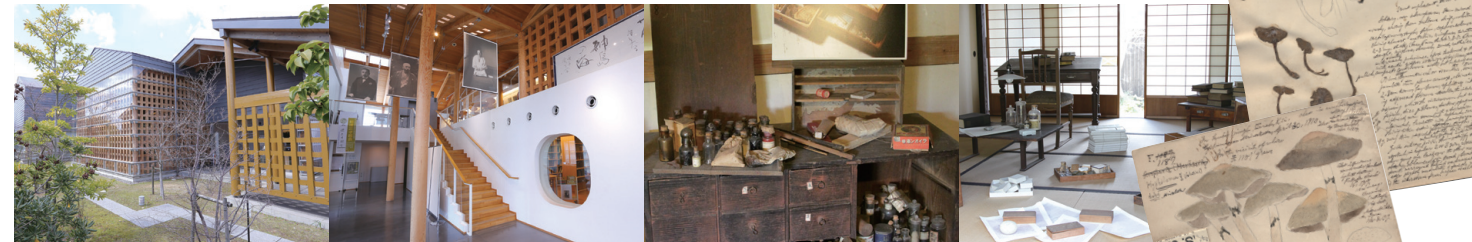
世界的な博物学者

南方 熊楠

みなかた くまぐす

1867年-1941年

和歌山県が生んだ博物学・民俗学の巨星「南方熊楠」は、東京大学予備門退学後、アメリカ・キューバ・イギリスに遊学し、数多くの論文を発表しました。「ネイチャー」掲載の論文数では、いまだに日本人で彼の右に出るものはいません。特に変形菌(粘菌)の研究は有名で、彼の名前の付いた「ミナカタラ・ロンギフィラ」があります。今から100年前に「エコロギー(エコロジー)」という言葉を使い、社団法人伐採による生態系破壊の危機に対して反対運動に奔走し、自然環境を守りました。「継桜王子・野中の一方杉」をはじめ、熊野古道には今も熊楠ゆかりの神社や神社林が点在しています。



南方熊楠顕彰館 館長 曾我部 大剛さん

「1867年、和歌山市に生まれた南方熊楠翁は、後半生を田辺で過ごしました。熊楠翁の死後、遺族によって邸宅(南方熊楠邸)や資料は保存されてきましたが、平成12年に長女・文枝さんが亡くなり、その遺志によってそれらは田辺市に寄贈されました。平成18年、旧邸の隣に南方熊楠顕彰館が開館。熊楠翁が遺した2万5000点以上の蔵書や資料を保存・研究するとともに、熊楠や熊楠のまら田辺の情報を発信しています」
また、熊楠翁が研究の場とした邸宅は、熊楠存命時の状態に復原し、庭とともに公開しており、往時の雰囲気を感じることが出来ます。

南方熊楠顕彰館 南方熊楠邸

面類のうち、キノコについても多くの努力を費やしました。乾燥標本だけでなく、彩色図に専門的な記載文を付けたものを約4000枚も作成しました。

国立科学博物館蔵